

平成22年度芦屋市立休日応急診療所運営協議会会議録

日 時	平成23年3月17日(木) 13:30~14:30
会 場	芦屋市医師会医療センター 2階会議室
出席者	会 長 北井 明 委 員 鈴木 紀元 委 員 安住 吉弘 委 員 仁科 睦美 委 員 小林 清史 委 員 磯森 健二 委 員 市川 武夫 欠席委員 金山 良男 事務局 北口 泰弘 瀬戸山 敏子 久保田あずさ
事務局	健康課
会議の公表	■ 公開
傍聴者数	0 人

1 会議次第

(1) 会長挨拶

(2) 議題

- ・平成21年度受診状況及び決算額について
- ・平成22年度受診状況について
- ・平成23年度予算(案)について

(3) その他

2 提出資料

資料1 芦屋市立休日応急診療所診療日報合計(21年度総合計)

資料2 平成21年度休日応急診療所決算額内訳

資料3 芦屋市立休日応急診療所診療日報合計(22年度総合計・2月末現在)

資料4 平成23年度休日応急診療所予算(案)内訳

3 会議経過

【開会】

(事務局北口) それでは、定刻になりましたので休日診療所運営協議会を開催いたします。なお、この会議は、芦屋市情報公開条例に基づき会議は公開、また委員の皆様のお名前・肩書き・会議録・会議録中の発言も公開となっておりますのでよろしくお願いいたします。

それでは、北井会長に議事の進行をお願いいたします。

(北井会長) この度の大震災で大変なときに、なにを挨拶したらと思いますが、皆さんお忙しいなか集まっておられますので、初めたいと思います。ご協力よろしく申し上げます。

それでは、議題1について事務局より説明願います。

(事務局北口) それでは、議題1「平成21年度の受診状況について」ご説明させていただきます。資料1と資料2をご覧ください。

(資料1及び資料2の説明)

(北井会長) ありがとうございます。この内容に何かご質問はありますか。

平成21年度は新型インフルエンザの患者増で、これだけ赤字が少なくなっておりますが、なんとも複雑な心境です。

そういうことで、新型インフルエンザの患者増で収支がよくなっているといくことで、よろしいでしょうか？よければ、議題2に移ります。お願いします。

(事務局北口) それでは議題2「平成22年度の受診状況について」ご説明させていただきます。資料3をご覧ください。

(資料3の説明)

(北井会長) 今の説明になにか、質問はございますか。

これも、新型インフルエンザの影響で受診者が増減したということですかね。年齢構成も新型インフルエンザがでた時は、その年齢での患者数が増えて、また構成がもとにもどったということですかね。よろしいですか、それでは、次の議題3をお願いします。

(事務局北口) それでは最後に議題3「平成23年度の予算案について」ご説明をさせていただきます。資料4をご覧ください。

(資料4の説明)

(北井会長) なにか質問はありますか。

今年度も新型インフルエンザで急に患者数が増えたときなどは、緊急で対応していただいております。

(事務局北口) 予算的には、先ほど言われたように患者さんがたくさんこられた時には、出務も増員していただかないといけませんし、薬剤もたくさん必要になると思いますので、そのときは、市で対応させていただくということを考えております。

(北井会長) それでは、ご質問はよろしいでしょうか。次に、その他としては何かございますか。

(事務局北口) 今回、委員の皆様の任期については、3月末までとなっております。この2年間ご苦労様でした。また、4月からは新しい委員の方をお願いするということになりますので、よろしく願いいたします。

(北井会長) 消防の方では、何かありませんか。

(市川委員) 救急のほうでは、2年ほど前に、救急車の患者をここに運べないかというのがあったのですが、救急は、2次医療ということで、この休日応急診療所は、応急ということで、運べない代わりに、市民からの電話で受診したいとの対応等で、こちらを紹介させてもらったりしています。電話番号等をお知らせしています。

(北井会長) 搬送で困ったこととかはなかったですか。

(市川委員) ありません。

(北井会長) 新型インフルエンザのときに、患者の待合をわけるとかあったのですが、結局、ハード面でどうしようもなく出来なかったのですが。将来、そういう問題がでてるかもしれないですね。

あとになにかありますか。

(安住委員) 月別患者数ですが、5月が多くなっていますが、なにかありましたか。ノロとか、流行していた覚えもないのですか？

(北井会長) これは、ゴールデンウィークのある日一日が多かったのです。前後は、少なかったのですが、なにかありましたか。

(事務局北口) 特に、何があったという訳ではないのですが、やはり連休中で他の診療所がすべてお休みということで、毎年、連休中でも特に多い日があります。

(北井会長) 今年の場合は、5月3日・4日・5日と飛び石が続いていますね。3連休く

らい続くときには、考えておかないといけませんね。

(鈴木委員) やはり、他の診療所が休みということで、不安感があると、患者数が増えるということはあるでしょうね。

(安住委員) 日数で割ってみても、一日平均で多いですね。

これは、休日診療で特定の感染症がはやったということではないということですね。

(北井会長) これは、心理的なものでしょうね。

(北井会長) 最近かかえている問題として、医師のほうから言われていることとして、休日診療所なのに、いろんな薬を希望される患者さんがくるということです。たとえば抗ヒスタミン剤ですが、ステロイドは最小の量しかださなかったのですが。普通の診療所と同じ間隔で、ポララミンシロップ等を処方したりとか、休日診療所として、どのように対応するかを考えないといけないと思う。薬剤師としては、薬の種類についてどうおもわれますか。

なぜかという、入れると必ず期限切れになることを考えないといけない。

(鈴木委員) これは、出務医師の方にも温度差がありますね。診療に対して、開設時には、24種類の薬剤で診療していこうと話していたのですが、西宮の休日応急診療所もそれくらいの数でやっているの、ところが、はじめてみると医師が色々希望をだして、内容をみると、かなりきめ細かな診療ができる内容になっていて、私たちとしては、応急診療でなぜ、そこまでと思う感じをうけるのですが、だけど、出務してもらわないといけないので、2年、3年した段階で、70種類くらいに増えていたと思います。

(北井会長) こういう問題は、なかなか話し合う機会がないので、ここで話ができたらと思うのですが。

(鈴木委員) 例えば、強心剤、注射薬10Aで1箱ですよ、ところが1Aのために10A買わないといけない。それで、期限切れになって廃棄する。本来であれば、強心剤を注射する段階で、2次医療ですね。

(北井会長) 診療する先生によって、対応の内容はかわりますよね。要求に忠実に対応する先生もいらっしゃいます。

(鈴木委員) マクロライド系の同じ成分の違う薬を希望する医師もいます。なぜかという、味が違うからです。そこまでやる必要があるのかは考えないといけないと思います。

(北井会長) 薬剤師として、期限切れで廃棄する医薬品についてはどうおもわれますか。

(仁科) もったいないなと思っているのですが、参加する薬局で、新しい薬を買うのであれば、この薬と交換して、診療所の分を新しくしてということを見せてもらっていますが、100錠で2錠しかでない場合もありますね。

(北井会長) そういうやりかたを、今後すすめるにはどうしていったらいいでしょうかね。ルール化した方がいいでしょうか。

(仁科委員) 薬剤師は、発注したがるので、できるだけ発注しないように皆には、伝えていきます。先生によって、薬の使い方に偏りがあるので、同じような薬をすすめたりしていますが。

(安住委員) 医療機関は、薬剤を、発注するだけですが、調剤薬局同士はお互いに薬をやりとりはできる。せめて、この休日診療で、薬の貸し借りができるようであれば、効率的だと思いますが。

(鈴木委員) 同じものを交換するのは、問題はないと思います。

(北井会長) 薬の種類によってできるものとできないものがありますね。

今よりも無駄な在庫がでないようにアナウンスする必要があると思います。薬剤についてなにか他の方法がありますか。

(仁科委員) 薬剤師会では500円の会費を払うことで、1シート単位で薬がかえるよう

になるのですが、もし医師会が会員になってもらえれば、ここからの余分な発注が減らせると思います。

(北井会長) それは、いい方法ですね、また詳しく教えてください。

精神科の搬送のことで、前回から救急の方では、なにか進展はありましたか。

(市川委員) 兵庫県の精神相談センターができて、搬送先の相談ができるようになり、少し楽になりました。

一時処置の病院としては、受け入れがありますが、その後の受け入れ病院を探すのが、大変です。精神疾患では、県健康福祉事務所にSOSを出すようにして、お世話になっています。

(鈴木委員) 精神疾患の救急病床は、光風病院に2床しかないのですよね。

(市川委員) ただ、そこに運んで済むというものではないです。一時処置については、市内の医療機関で対応していただいておりますので、救急隊としては安心しています。

(北井会長) 今日は、色々な話が出てきて有意義な会でありました。

それでは、閉会いたします。

【閉会】